

舊 驅逐 艦 文 月 三 関 ス ル 件

0316

大正四年九月廿七日起案

起案者 捺印

皇田

九月三十日發付

發付掛 捺印

小枝

發付後起 案者捺印

皇田

四 28

(主務) 軍務局長

秋山

局員

皇田

秋山

大 次官

參事官

副官

皇田

艦政本部長

村松

經理局長

第四部

會計課

皇田

皇田

皇田

皇田

勝

皇田

九野

大正四年九月三十日

海軍次官

佐藤長官宛

舊品返送願文月三箇の件

九月十四日此官守第211三第、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

官房第二二三號六

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						皇田			大官官房	皇田	受月日發月日
						皇田			皇田	皇田	九月廿七

皇田 4 9 28

0317

移帳

佐藤三三九

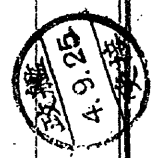
大正四年九月廿二日

伊藤侍世侍中工部長

寸上侍中給政本部長殿

第四部 會計課 在留返送給文月、関心件

在留返送給文月、相関及、殊、其、シ、シ、
却、取、付、管、崎、宮、献、納、方、官、房、才、ニ、一、三、子
ノ、ソ、シ、訓、令、相、係、為、取、身、五、一、ニ、子、ソ、以、思、念
相、係、力、而、交、梅、岡、内、諸、本、係、及、相、送、軸、推、進、各
等、ノ、取、外、シ、上、甲、板、及、ゲ、ー、ン、シ、カ、令、部、新、脱、其、
入、梁、等、ノ、工、事、ノ、留、シ、海、外、ニ、復、シ、廣、施、徴、シ、其、ノ、價



四 九 21

0319

用却テ流不青僧以上願上ノバト流ノ有奉
是子ノモノヲ附付ノ為引渡シテ支度ノ事ナ
一書トシテ見出致方
古也合ス

了

佐世保 継成合印

0320

起案罰紙

大正四年八月廿四日起案

起案者

九月十四日發付

發付掛

發付後起

案者捺印

(本務) 軍務局長

局員

大臣

次官

參事官

副官

經理局長

局員

艦政本部長

第二部

會計課

第三部

第四部

大正四年九月十四日

佐野長官

旧艦政文庫

福岡縣下笠原村大社宮崎宮一附帶事業トシ

番号 官房第二二三號

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						9月21日				大臣官房	授月日
						9月30日					發月日

0321

七日市海海軍記念會ニ旧艦五隻、蘇納相
 受渡旨、蘇峰宮ニ司ヨリ出願有之候付、本年
 六月廿八日蘇峰宮第一〇五三號刻令ノ賣却ヲ取止
 ノ事、此際、日艦杯間及蘇裝品ノ賣却ノ般
 本ニ右蘇峰宮ニ蘇納ノストトシ、福因線知事ト協
 議、上川艦ヲ博多灣ニ回航、蘇峰宮ノ引渡方取
 計、トシ
 右刻令ニ

追テ所要ノ修理費並回航用需品ノ豫算ニ關シテ
 艦政本部長ヨリテ、支撥其額所屬ニ取長、通
 條セム

0322

官房第二二三號

大正四年九月十四日

海軍次官

海軍省知事

旧駐暹文月蘇納之國に件

官務大臣葛峰宮、旧駐暹蘇納方、聞し七月廿

五日附信有、四四六五號、以て、副中、有、外、付、系、

目下、世、保、領、事、存、中、旧、駐、暹、文、月、蘇、納、

ノ、事、ト、定、テ、ラ、シ、暹、ハ、世、保、領、事、存、中、於、テ、博、多、灣、

迄、回、航、日、地、多、宮、嶺、宮、ハ、引、渡、方、取、計、ヲ、ハ、キ、旨、世、

保、領、事、存、司、令、長、官、ニ、訓、令、求、以、テ、條、目、暹、協、受、ニ、

聞、シ、テ、ハ、詳、細、世、保、領、事、存、ハ、協、議、方、可、也、

右、申、上、ス

0323



古事記(古事記) (古事記) (古事記)
古事記(古事記) (古事記) (古事記)
古事記(古事記) (古事記) (古事記)
古事記(古事記) (古事記) (古事記)

0324

供覽

軍務局



目下下付

庚申四四六五号

大正四年七月二十三日

福岡縣知事谷口留五郎

海軍大臣八代六郎殿

驅逐艦下付願、件ニ付副申

管下官幣大社宮崎宮出願ニ係ル標記、

件奉月十三日官房第二一三号、ニシ以テ

御回答、次第直ニ該神社、移牒候處

更ニ別紙、通日露戰後、捕獲艦文月、

御下付ヲ請ヒテ前願、目的ヲ達センコトヲ

願出候ニ付、前願副申、旨趣ニ依リ特

全七月廿六日
軍務局謹受

0325

別御詮議ヲ以テ願意御採用相成度

0326

宮發第七九九号

大正四年七月二十一日

官幣大社宮崎宮司兼津洗造



海軍大臣八代六郎殿

驅逐艦文月下附願ノ件

客月二十五日宮發第七六四號ヲ以テ驅逐艦連魚償御下附ノ儀出願仕候處談艦既ニ相當御用金アリテ御詮議相成

關照第266号
大正四年七月二十一日

官幣大社宮崎宮司

0327

兼候趣ニ有之千萬遺憾、至リニ奉存候就
テ六日露戰役中、捕獲驅逐艦文月御
下附相願ト前願ノ目的遂行致度候條特
別ノ御差議ヲ以テ願意御聽許被成下度
此段相願候也

~~紙 野 集 起~~

大正四年七月九日起案
 起案者 捺印
 七月十三日發付
 發付掛 捺印
 發付後起 捺印

(主務) 野集起
 秋山
 島
 三
 三

大臣
 副官
 參事官

次官
 參事官
 下村

經理局長 勝
 局員

艦政本部長 村松

第三部
 第四部
 會計課

大正四年七月十三日

福田
 海軍省

福同知事
 海軍省

海軍省
 海軍省

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						4.7.6				7月10日	受月日 發月日

政艦 4.7.6

0329

海軍の同法、無償下付方、六月、同日、既、海軍、能、
 有、未、修、費、副、中、古、外、知、同、既、海、軍、能、
 相、用、途、者、之、求、遺、樹、共、海、軍、計、事、業、以、旨、所、
 諒、解、上、可、然、少、濟、達、方、印、也、
 右、回、答、ス

(終)

供覧

軍務局

秋山

艦政本部

庶第 〇九 〇五 号

大正四年六月三十日

福岡縣知事 谷口留五郎

海軍大臣 八代六郎 殿

局員

驅逐艦無代下付ノ件ニ付副申

縣下官幣大社菅崎宮ヨリ別紙ノ通
出願ニ付調査候處該社ハ從來外寇
上頗ル光輝アル歴史ヲ有シ近代ニ
亦外敵擊攘ニ深キ因縁ヲ有スル等
ノ關係ヨリ附帶事業トシテ日本海
海戰ニ於テ會ヲ組織シ三十九年以來



海軍省接受

七月三日

軍務局

0331

毎年開催セリ而シテ其目的ニ於テ有益ナルヲ認メ本官之カ會長トナリ益甚發展ヲ計リ殊ニ御者ヨリモ特ニ驅逐艦隊中差遣相成士氣ノ作興民心奉公ノ感念ヲ強フスル等其ノ效果大ニ見ルヘキモノアリ茲ニ關係者熟慮計劃ノ上日本海海戦ノ殊勲タル連舞ノ下付ヲ得テ従来ノ歴史ニ一大光輝ヲ添ヘ以テスルモノニシテ民心ノ教化上ニモ多大ノ裨益アルモノト認メ候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ願意御採用相成度

0332

驅逐艦連下附願

0333

宮務第七十四號

大正四年六月二十五日

官務大社宮崎宮司甚良津洗

官務大社
宮崎宮司
甚良津洗
印

海軍大臣八代六郎檄

驅逐艦連下附願ノ件

國家ノ隆昌ト國民ノ元氣トハ光輝アル國
史ノ回顧ト至大至切ノ關係有之候コトハ
茲ニ喋々ヲ要セサル所ニ候私力ニ惟フニ本宮

宮務大社宮崎宮司

0334

鎮座ノ地タルヤ敵國降伏ノ靈跡ニシテ
嘗テ刀吏ノ侵略ヲ擊攘シ蒙古ノ末寇ヲ
殲滅セシハ勿論凡ソ我國ノ興廢ヲ決スニ對
外的事端ハ一トシテ深甚ナル關係ヲ有ス
ルモノナク敵國降伏ノ神報言ハ萬古ニ且リテ
愈益益赫奕タリ殊ニ日本海海戦カ本宮
伏敵門下ニ於テ天神地祇ヲ奉招シテ伏
敵祈願ノ大祭典ヲ執行セシ祭日ト符節
ヲ合ハスルカ如クナリシニ至リテハ實ニ其偶然
ニアラサルヲ感スル次第ニ御座候有志ノ士

0335

茲見ル所アリ世界海戦史上特筆スルキ
曠古ノ一大偉蹟タル日本海海戦ヲ永遠ニ
記念シ後世子孫ヲニ感奮興起セシムコト
ルノ主旨ニヨリ日本海海戦記念會ヲ組織
シ先手來談海戦ト最モ因縁浅カラサル本
宮伏敵門下ニ於テ其式典ヲ隆重举行シ之ニ修
以テ士氣ヲ鼓舞シ元氣ヲ作興シ奉公ノ赤
誠ヲ奮起セシムルニ努力致括候 仄聞不慮
ニ依リハ談海戦際敵ノ主將ヲ生擒シテ殊勲
ヲ彰ハシタル驅逐艦連攻者廢艦ト相成候

一 官制ノ元名此官
趣ニ候處此名譽アル談艦ヲ以テ我國ノ光輝
アル國史ヲ包容セル此本宮伏敵門下ニ壯置
スレ得ハ後世國民ヲ以テ益國史回顧ノ念ヲ
刺激スレ下深甚ニシテ元氣ヲ作興スルニ多大
ノ効果アルハキハ堅ク信ヒテ疑ハサル所ニ候就テ
ハ此際談艦無償御下附相願ヒ本宮ニ於テ
永遠ニ保管致シ上述ノ目的ヲ遂行スル勉
メ度候條微意ノ存スル所ヲ諒察セラレ特
別ノ御詮議ヲ以テ願意御聽許被成下度
此段相願候也

0337

一四航一上陸上振付工車等々海軍ニ於テ取計方管嶺宮々
司ヨリ進取ノ趣意十月廿八日陸部四四六五號ヲ以テ
海軍大臣大副中野少将ニ同様博多四航ニ関シテ
既ニ多大ノ經費ヲ要スノ事ヲ又目下海軍ニ於テノ經費多
端折柄ニ由道樹ナカク亦甚重ニ慮シ故ラ上策此ノ上
管嶺宮々司ノ傳改テ示シ
右中付ス

進テ對利尔等ニ既ニ處理済ニテ適当ノ現示無ク
糸是又可然由道ヲ得

0339

軍第四三九號

吉田軍

本月十八日起
月廿五日發付

軍務局長

佐野清太郎

11月21日 佐野清太郎 宛 函 件

本件ニ関シ 別紙甲種 勅諭 同知事 副中 對

ニ乙種ノ通 申付 乞出 係知事 外

右通 係入

(別紙 四 番 附)

海 軍

0340



花崎納

十月二十五日 軍司ノ通牒ニ全無事下スルキモノ
ナリト記シ 十月ハ

保岡

軍務局接受
全十月 旨

通曰 驅逐

ニ付 取調 矣

長房 弟二二一

モ有之 該宮

該艦ハ 廢艦

ニ取卸 サレ

0342

0341

軍務局

廢第四四六五号

大正四年十月二十八日

福岡縣知事谷口留五郎

海軍大臣加藤友三郎殿

驅逐艦^{同員}献納^三件ニ付副申

縣下官幣大社宮崎宮ヨリ別紙ノ通旧驅逐艦文月献納ニ関シ追願書提出ニ付取調矣處本件ニ付テハ客月十四日付官房第二二三號ノ五沙以テ御通牒ノ次第モ有之該宮ヨリ佐世保鎮守府ニ出頭セシニ該艦ハ廢艦當時ニ航附屬品ノ大部分ハ已ニ取卸サレ

軍務局接受
全十月 旨

0342 0341

タルノミナラス博多灣迄回航、御豫定ナリシ
 ヲ以テ其儘直前、海上ニ繫留シテ保存スル計
 画ヲウレモ斯クテハ永遠ノ維持上頗ル不經濟ナ
 ル旨申聞ラレ止ラナリ當初、計画ヲ變更シ陸
 上ニ据付ントセシモ是又少カラサル費用ヲ要ス
 ル趣、有之該宮ハ近年拜殿神饌所、改築
 シ了ハ今ハ二ヶ年繼續ヲ以テ樓門修理中ニシ
 テ是迄多額ノ費用ヲ支出シ財源殆ント欠乏シ
 頗ル困難ノ状態ニテ本件ニ関シテモ能ク献納
 ノ御主旨ヲ奉レ諸種ノ事情ヲ排シテ永遠ニ
 維持スルノ方法劃策致シ居候際ニ付据付其
 他ノ費用ヲ負擔スルハ到底見之ニ相立兼候
 条特別ヲ以テ願意御採用、上出未得ル限り

0343

戦利品参考品トモ御下付相成美様御配
慮相成度

0344

宮發第一一五九号

大正四年十月二十五日

官幣大社宮崎宮司葺津洗造



海軍大臣加藤友三郎殿

驅逐艦下附儀付追願

本年七月二十日付ヨリテ驅逐艦御下附儀出願致
シ候取今般文月ヲ本宮御獻納可相成事御
確是之趣候取最初本宮ノ計畫ニテ御附艦體

官幣大社宮崎宮司

0346

ハ本宮直前ノ海上敷留テ艦上ニ各種戦利品及
参考品其他繪画圖書等ヲ陳列シ衆諸ニ觀覽
セシメ一面三日清日露日獨ノ戦役ニ於テ我カ忠勇
義烈ナル将士五國難ニ際シ如何ニ奮闘セシカラ追想
セシメ他ノ一面ニ海事思想養成資料ヲ致度且
又該維持金トシテハ相當金額ヲ當箱崎所住葦津
耕次郎ヨリ社頭ニ獻金シ右利子金ヲ以テ将来ノ維
持費ニ充當致シ候事ト相成居候然ルニ當路ノ意
見ニ據レハ前頭ノ通り艦体ヲ海上敷留致シ候事
ハ保存上非常ノ不利益有之候趣ニ付本宮直前海

岸附近適當陸上引揚据付、上永々保存仕度候
屢本宮於六、昨年来拜殿、改築ヨリ引續キ目下
構内廻廊、大修理中ニテ多額ノ費用ヲ要シ居候折
柄談引揚等ノ費用、出所全然無之誠ニ困難罷在
候就テ經費御多端際恐緒、至ニ奉存候得共事情
御洞察、上談艦体陸上引揚据付、上御獻納被下
度此改追願仕候也

追テ本文陳述ノ通り觀覽者對シ海軍思想養
成ノ希望、御座候間大砲其他ノ兵器等御差支、無之
限リ原形ニ復シ御下附相願度、勿論日清日露日

獨三戰役ニ於ケル戰利品及參考品又ハ各種砲彈等
被為出來候限多數御下附相願度候也

0349

起案野紙

大正四年六月廿九日起案
起案者 捺印

六月三十日發付
發付掛 捺印

發付後起
案者捺印

(主務) 軍務局長

局長

副官

參事官

大臣

次官

參事官

參事官

大正四年六月三十日

海軍大臣

海軍大臣

除籍小雷艇交付

香川阿波系島航海所用トシ除籍小雷艇無償交付

番

電報二〇五二號

局部	受月日	發月日
官房	六月廿九日	
軍務	大臣官房	
人事		
警務		
經理		
司法		
艦政		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

0350

下り落首香山の如事より内中へ趣りて古殿を修葺す
古月共の如事奔二回脚の如心、如日降靴水雷魁、既
賣却ノストニ味走物ノ木ニ趣理濟行水邊樹少事香心ニ
と新、水奈少事如事外ら

古心香心
追々香山の如事へは本橋本矢、趣りて古殿を修葺す

0351

軍務局

艦政本部

經理局

文 部 省

文部省 香專二四號

香川縣知事ヨリ水雷廢艇無償下付ノ
儀ニ付別紙寫ノ通内申有之候ニ付
テハ特ニ願意御聽許相成候様致度
以段及御依頼候也

大正四年六月二十八日

文部大臣 法學博士 木喜徳郎



海軍大臣 八代六郎 殿

香專二〇五號

大正四年六月二十八日

海軍省 接受

軍務局 接受
六月廿八日

0352

寫

四乙學第120一號ノ一

内申

大正四年六月三日

香川縣知事若林資藏

文部大臣法學博士一木喜徳郎殿

本縣立粟嶋航海學校ニ於テハ機関并ニ汽
機ノ設備極メテ不完全ニシテ常ニ遺憾ニ
存居候處今般吳鎮守府ニ於テ水雷發艇
處分可相成趣聞及候ニ付テハ海事教育
獎勵ノ為同艇ヲ該校ニ無償下附ノ義海
軍大臣ニ内申致置候ニ付テハ右希望相

0353

達候様御取計相願度此段及内申候

0354